



## サイエンスドクターによるプログラミング学習が行われました！！

6月15日(木)16日(金)にサイエンスドクターの鹿貫悠多氏によるプログラミングの体験学習が3年生の各クラスで行われました。Pythonという言語を用いて外付けされたLEDを点滅させるためのプログラミングを行いました。

生徒たちは、最初は戸惑っていましたがプログラミングの論理展開がわかるようになると、応用してプログラミングできるようになり楽しんで取り組んでいました。



## 校内弁論大会が行われました！

6月13日(火)5・6校時に校内弁論大会が体育館で実施されました。各クラスの代表弁士が、日頃の思っていること、意見や考えを発表してくれました。どの生徒も堂々としていて立派な態度で行うことができました。講評で話しましたが、どの弁論も実体験に裏打ちされた深い内容で、聞き手に対して説得力のあるものばかりでした。

最優秀賞は、3年3組の〇〇さんの「六千百六の思い」になりました。以下に優秀賞を紹介します。

- ・1年1組 〇〇さん「毎日の選択」
- ・1年2組 〇〇さん「読書と学生」
- ・1年3組 〇〇さん「これからの社会でA1と上手に関わりながら安全に暮らす方法」
- ・2年1組 〇〇さん「鳥派」
- ・2年2組 〇〇さん「生きていてくれてありがとう」
- ・2年3組 〇〇さん「その言葉は本物だろうか」
- ・3年1組 〇〇さん「あいさつ」
- ・3年2組 〇〇さん「生きやすい社会へ」

## 感謝の言葉 <サンキューツリーの実践から>

6月23日(金)5校時の全校集会では、「感謝の言葉」という話をしました。以下にご紹介します。

玄関付近の廊下にみなさんが書いてくれた「サンキューツリー」が掲示してあります。ひとつひとつ見せてもらいました。「勉強を教えてくれてありがとう」「相談にのってくれてありがとう」「クラスの雰囲気盛り上げてくれてありがとう」「部活を明るく盛り上げてくれてありがとう」「部活でペアを組んでくれてありがとう」等、友達や先輩に対する感謝の気持ちが溢れていました。書かれた人はもちろん、それを書いた人も友達に対してやさしい気持ちで接することができると思います。優しい言葉や感謝の言葉は人を優しくします。しかし中傷や侮蔑の言葉は人を奈落の底へ突き落とします。残念ながらSNS上での誹謗中傷がなくなっていません。

「仲間内だから大丈夫と！」と相手に聞かれないようにひそひそ話で、バカにしたり誹謗中傷することは、言われた本人に大きなショックを与えます。LINE上で特定の友達の悪口を書き込んで仲間内で中傷することも同じことです。優しさで友達に接していれば、優しさで友達からかえってきます。逆に友達に攻撃的になれば、それはそのままあなたへかえってきます。学校で生活しているときも、校外で生活しているときも、SNSをしているときも優しい言葉、感謝の言葉を心がけて生活してほしいと思います。

<文責 谷 滋>